



AWS Organizational Change Acceleration ("OCA") 6-Pointフレームワーク – 4。組織を関与させる

AWS 規範ガイダンス



AWS 規範ガイド: AWS Organizational Change Acceleration (OCA) 6-Point Framework – 4. 組織を関与させる

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

序章	1
対象者	3
ターゲットを絞ったビジネス成果	3
「6-Pointフレームワークガイド」について	3
4.1 改革促進の実装	5
概要	5
ベストプラクティス	6
改革促進チェックリスト	7
追加のステップ	10
4.2 通信の実装	12
概要:	12
ベストプラクティス	12
引き受け	12
焦点	12
リーダーシップスポンサーシップの維持	13
コミュニケーション実装チェックリスト	13
追加のステップ	15
4.3 エンゲージメントプランの実装	16
概要:	16
ベストプラクティス	16
引き受け	16
焦点	16
エンゲージメントアクティビティチェックリスト	17
追加のステップ	19
4.4 トレーニングの実装	20
概要	20
ベストプラクティス	20
引き受け	20
フォーカスエリア	20
トレーニング計画チェックリスト	21
追加のステップ	24
4.5 リスク軽減の実装	25
概要	25
ベストプラクティス	25

フォーカスエリア	26
リスク軽減計画チェックリスト	26
追加のステップ	29
リソース	31
リファレンス	31
パートナー	31
寄稿者	33
ドキュメント履歴	34
用語集	35
#	35
A	36
B	38
C	40
D	44
E	48
F	50
G	51
H	53
I	54
L	56
M	58
O	62
P	64
Q	67
R	67
S	70
T	74
U	76
V	76
W	77
Z	78
.....	lxxix

AWS Organizational Change Acceleration (OCA) 6-Point Framework – 4. 組織を関与させる

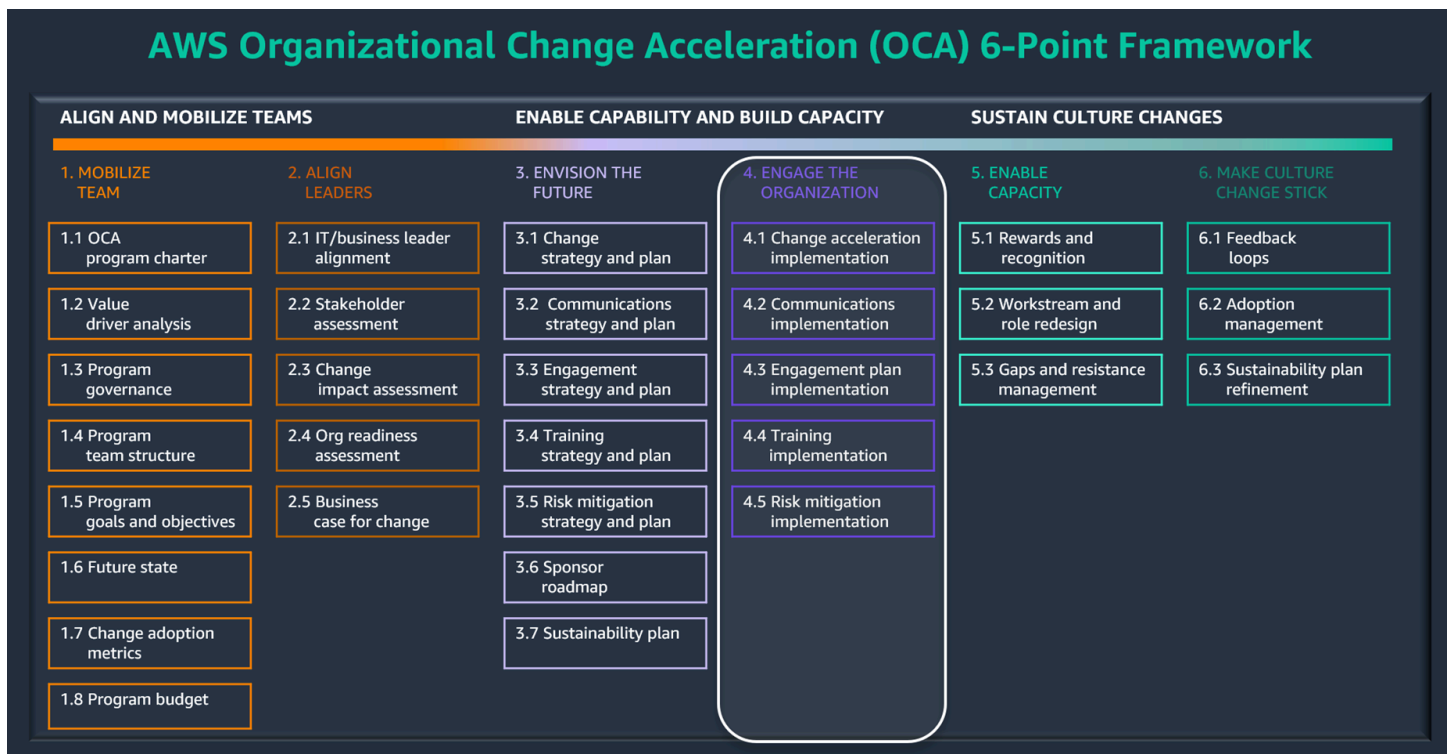
Amazon Web Services ([寄稿者](#))

2025 年 2 月 ([ドキュメント履歴](#))

AWS Organizational Change Acceleration (OCA) の 6-Point Framework は、移行、モダナイゼーション、生成 AI スケーリング、イノベーションなど、クラウドトランスフォーメーションのライフサイクル全体を通じて、人に関連する問題や課題を網羅することを目的としています。この Framework は、お客様が以下の方法で AWS テクノロジー、プロセス、新しい作業方法を採用するのに役立ちます。

- 主要なリーダーの特定、調整、動員。
- クラウドトランスフォーメーションにおける組織的インパクトの評価および緩和。
- 改革促進、コミュニケーション、トレーニング計画の設計
- リーダーシップ、スポンサーシップ、文化戦略の策定

Framework の 6 つのポイントは、プログラムの開始から持続可能な長期的変化まで、アジャイルなスプリントのケイデンスと一致しています。次の図は、これらの 6 つのポイントとそのサブポイントを示しています。



4 つ目のポイントである Engage the Organization は、前の 3 つのポイントで作成した戦略と計画をアクティブ化し、さまざまな評価から得られたインサイトを活用して、組織を望ましい将来の状態に積極的に変換するのに役立ちます。トランスフォーメーションが開始されると、負担はクラウドトランスフォーメーションチームや部門横断的なリーダーから従業員ベースに移行し始めます。Engage the Organization には 5 つのサブポイントが含まれています。

4.1 アクセラレーションの実装を変更します。クラウドの導入を可能にし、望ましいビジネス成果を達成するための変更戦略と計画を実施します。

4.2 通信の実装。クラウド戦略が実装されたら、コミュニケーション戦略を実装し、継続的なコミュニケーションニーズに対応する計画を立てます。

4.3 エンゲージメントプランの実装。クラウド戦略を正常に適用し、クラウドからビジネス価値を実現するために必要な変更に対応するために、ステークホルダー固有の計画を実施します。

4.4 トレーニングの実装。トレーニング戦略を実装し、影響を受けるステークホルダーグループを包括的に準備して、将来の状態のクラウドアクティビティを熟達させる計画を立てます。

4.5 リスク軽減の実装。タイムリーなビジネス成果に影響を与える可能性のある人事関連のリスクを積極的に特定および管理します。

このガイドでは、組織をエンゲージするの各サブポイントについて詳しく説明します。

対象者

このガイドでは、クラウドトランスフォーメーションの加速を担当するリーダーを対象としています。これらの推奨事項に従うことで、リスクを最小限に抑え、価値を最大化できます。

ターゲットを絞ったビジネス成果

AWS 「組織を関与させる」の6-Pointフレームワーク」フェーズは、次の成果につながります。

- 価値の実現と投資収益率 (ROI): この "フェーズでは、クラウド導入を高速化する戦略の実装に焦点を当てます。これらの戦略は、全体的なクラウド計画とビジネス目標の両方に一致し、クラウド投資から最大限の価値を確保します。
- トランスフォーメーションリーダーシップ: クラウドトランスフォーメーションを加速するために、リーダーシップは連携し、動員されています。
- クラウドアクセラレーション: "ワークストリームは、クラウドトランスフォーメーションを加速するためにリソースを迅速に動員するために必要な方向性、メトリクス、ガバナンス、プログラム予算を確立します。
- 組織の調整: "ワークストリームはリーダーと協力して明確なビジネス目標と目標を設定し、組織エンティティとパフォーマンスレバーを調整します。
- エンゲージメントの高いワークフォース: "ワークストリームは、従業員をクラウドトランスフォーメーションプロセスに積極的に関与させ、デジタルの洞察力と能力を開発する戦略を作成します。
- 将来に備えたワークフォース: "ワークストリームはロールをモダナイズし、ワークフォースが自律的に作業し、主要なクラウド対応機能を推進できるようにします。

Engage the Organization アクティビティを効果的に実装することで、組織はクラウドトランスフォーメーションからスピード、俊敏性、イノベーション、ビジネス価値の具体的な改善を実現できます。

「"6-Pointフレームワークガイド"について

このガイドは、プログラムおよび証拠ベースの組織改革導入フレームワークである "6-Point Framework" に関する一連の出版物の一部です。

コンテンツセットには、クラウドトランスフォーメーションを加速するために設計された包括的なテンプレート、ガイドライン、サポートアーティファクト、評価、アクセラレーター、ツールのセット

が含まれています。概要から始め<https://docs.aws.amazon.com/prescriptive-guidance/latest/strategy-ocm/>でフレームワークとその6つのポイントを理解し、各ポイントの詳細な議論については以下の個別ガイドを参照することをお勧めします。

1. [チームの準備](#)
2. [リーダーの連携](#)
3. [未来を思い描く](#)
4. 組織を関与させる (このガイド)
5. [能力を発揮させる](#)
6. [文化の変化を定着させる](#)

クラウドトランスフォーメーション戦略、ガイド、リソースの包括的なセットについては、[「クラウドトランスフォーメーションの加速」](#)を参照してください。

4.1 改革促進の実装

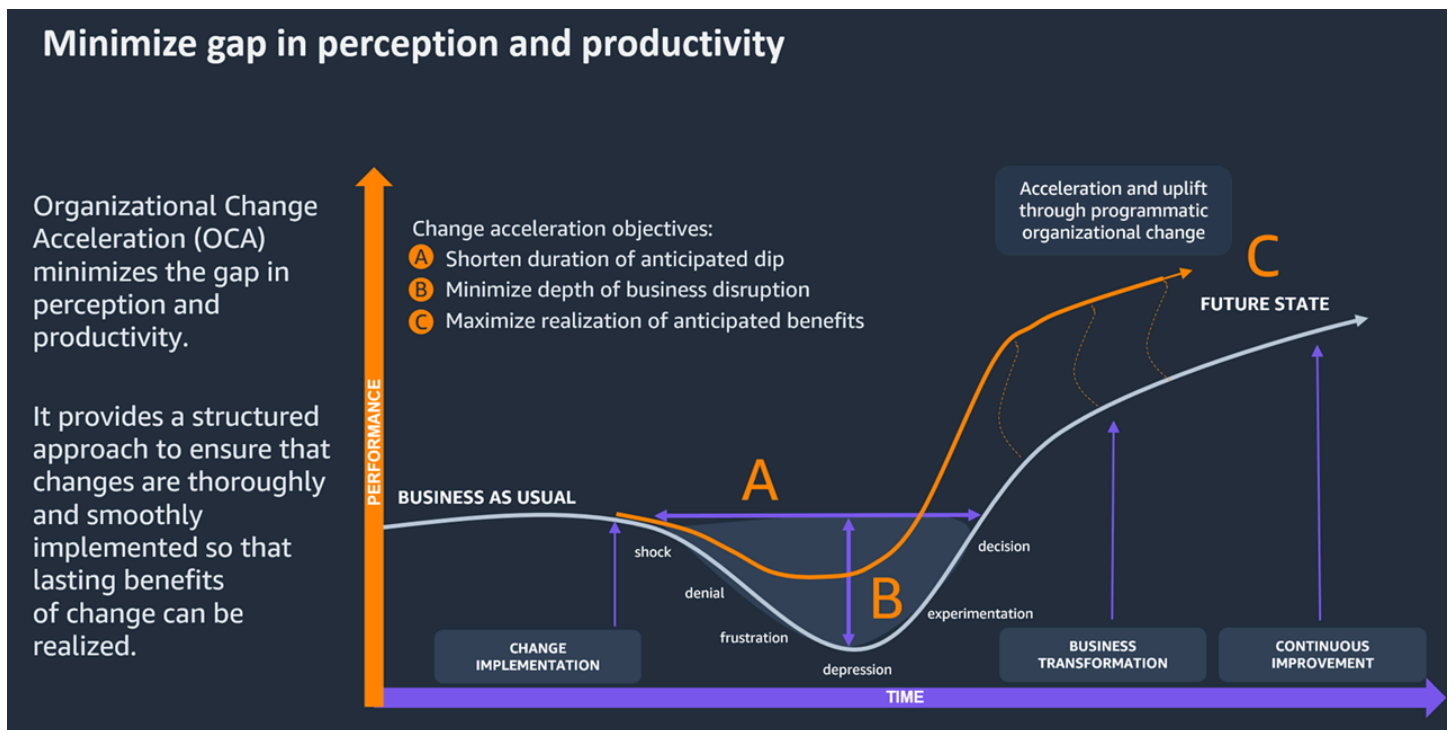
概要

このアクティビティの目的は、変更戦略と計画に記載されているアクティビティを起動することです（「[Envision the Future, 3.1](#)」を参照）。変更戦略と計画は、クラウドトランスフォーメーションの過程で、適切な変更戦術を適切な人材に適切なタイミングで提供するための、考え抜かれた構造化されたプログラムによるアプローチを提供します。クラウドの結果として組織に導入された変更が、最小限の中断と最大限の結果でリーダー、従業員、その他の利害関係者に受け入れられるようにするための包括的なアプローチの概要を示します。プロジェクトやイニシアチブ中にツール、テクノロジー、プロセス、スキルの適用を調整するための体系的なメカニズムを提供します。これらは、組織がビジネス、テクノロジー、サプライチェーン、組織構造、またはプロジェクトの範囲の運用方法における変化に対処する具体的な方法について説明します。変更戦略は、クラウドトランスフォーメーションプロセス全体を通じて、情報に基づいた意思決定の方向性と結果を提供します。

改革促進の実装アクティビティでは、すべてのクラウドワークストリームやステークホルダーと緊密に連携し、プログラムの存続期間をつなぐプログラムのでリズミカルなタイムラインでその戦略と計画の要素を実装し、時間の経過とともにさまざまなマイルストーンで加速および減速することに焦点を当てています。

変化は組織にとって非常に破壊的であり、時間の経過とともにクラウドトランスフォーメーションと周囲の環境の両方に影響します。例えば、新しいリーダーが現れたり参加したり、他のリーダーが退職したり退出したりする場合があります。合併、買収、売却などの新しいビジネス取引が行われ、クラウドトランスフォーメーションが加速、一時停止、または範囲の変更を引き起こす可能性があります。

次の図は、変化の加速中に認識と生産性のギャップを最小限に抑える方法を示しています。



ベストプラクティス

変更アクセラレーションを実装するための主要なベストプラクティスは次のとおりです。

- 主要なマイルストーンごとに、変更が組織にどのように影響し、誰が影響を受けるかを記述します。これらの変更には、データセンターの終了、新しいソリューションと機能のデプロイ、Cloud Center of Excellence (CCOE) の確立などが含まれます。
- ステークホルダーが変更が必要なタイミングと、従業員への影響を軽減する方法を認識する計画を作成します。
- 変更を実装、承認、モニタリングするための定義されたプロセスまたはメカニズムに従って、変更が望ましい効果を持っていることを確認します。
- クラウドトランスフォーメーションの戦略的ビジョンと**ビジネスケース**の両方を定期的に見直し、更新します。これにより、メッセージングが一貫性があり、関連性があり、変化するビジネス条件に合致していることが保証されます。
- 組織に加わる主要なリーダーにインタビューし、計画プロセスの早い段階ですべての主要なマイルストーンについて影響を受けるステークホルダーを特定します。プログラムの存続期間中、それらの整合性を定期的に変更します。
- より広範なクラウドトランスフォーメーションプログラムチームに参加するパートナーを継続的に統合し、一貫した目標と主要な結果 (OKRs)、タイムライン、動機を確保します。

- エンゲージすると役に立ち、エンゲージしないとタイミングや予算の遅延が発生する可能性のある関数の有効化と継続的に連携します。例えば、これらの機能には、人事、トレーニング、財務、部門横断的なリーダー、ビジネスリーダー、直接的または間接的に影響を受けるその他のパートナーやベンダーが含まれます。これらのステークホルダーと少なくとも四半期に一度話すことを計画します。少なくとも、プログラムの更新を提供し、入力を重要視していることを示してください。通常、いくつかのアクション項目やインサイトは、事前に対処しないと計画を脱線させる可能性があります。

改革促進チェックリスト

アクティビティの変更促進チェックリストを作成すると、変更戦略と計画 (および関連するユーザーストーリー) が包括的で堅牢かどうかを確認するのに役立ちます。次の表に、使用を開始するためのリストを示します。

[面積]	"6-Point Framework" リファレンス	アクション
プロジェクト管理	組織を関与させる、1.5 プログラムの目標と目的	<ul style="list-style-type: none"> • クラウドトランスフォーメーションプロジェクトの毎週の会議 (スプリントセレモニー、バックログ計画会議、起動準備計画セッションなど) に密接に統合され、参加していることを確認します。 • 毎週、改革促進リスクのリスク管理と緩和ログを更新します。 • 毎週 (またはスプリントごとに) 変更促進レポートのスコアカードとステータスレポートを更新します。
リーダーシップの調整とステークホルダーの分析	Align Leaders、2.1 IT とビジネスリーダーの連携	<ul style="list-style-type: none"> • ステークホルダー分析アプローチを準備します。

[面積]	" 6-Point Framework リファレンス	アクション
	Align Leaders、2.2 ステークホルダーの評価	<ul style="list-style-type: none"> インタビューするリーダーを特定します。 ステークホルダーのインタビューと分析アクティビティを実施します。 リーダーシップチームに結果を提示します。 リスク管理と緩和ログにリスク検出結果を挿入します。 ステークホルダーマトリックスを更新して維持します。 ペルソナベースの変更の影響、コミュニケーション、トレーニングへの入力として、ステークホルダーマトリックスを使用します。
変更影響評価	Align Leaders、2.3 変更影響評価	<ul style="list-style-type: none"> 変更の影響を評価し、文書化します。 ユーザーグループ、タイムライン、データセンターの終了、製品の発売、その他の重要なマイルストーンへの影響を管理および軽減するための適切な介入を決定します。

[面積]	" 6-Point Framework リファレンス	アクション
リスク管理と緩和	未来のビジョン、3.5 リスク軽減戦略と計画 組織の関与、4.5 リスク軽減の実装	<ul style="list-style-type: none">• 変更リスク評価アプローチを準備します。• インタビュー、フォーカスグループ、アンケートなどのリスク評価活動を実施します。• 結果を分析してリーダーシップチームに提示します。• リスク管理ガイドラインに従って、リスクと問題を割り当てて軽減します。• 必要に応じて、改革促進計画とステークホルダーエンゲージメント計画を更新します。

[面積]	" 6-Point Framework リファレンス	アクション
スポンサーロードマップ	Future, 3.6 スポンサーロードマップをビジョンする	<ul style="list-style-type: none"> スポンサーアプローチを準備します。 リーダーシップのアクションプランに従って、主要なメッセージ、よくある質問、タイムライン、ロードショーのプレゼンテーションなど、スポンサー向けの資料を準備します。 スポンサーとリーダーを特定します。 スポンサーとリーダーを関与させ、オンボードします。 スポンサーロードマップに従って、リーダーシップアクションプランアクティビティの進行状況をモニタリングし、測定します。 必要に応じてスポンサーとリーダーをサポートします。必要に応じてマテリアルとよくある質問を更新します。
改革促進計画	未来を構想する、3.1 戦略と計画を変更する	<ul style="list-style-type: none"> 変更計画の実装を継続的にモニタリングし、測定します。

追加のステップ

改革促進の実装を開始するには、以下を実行します。

1. データセンターの廃止、移行、新しいソリューション、ビジネストランザクション (合併、買収、売却)、リーダーシップの変更、少なくとも四半期に 1 回など、重要なマイルストーンで 変更戦略と計画 全体を見直します。
2. クラウドトランスフォーメーション統合チームの一員として、毎週のすべてのステータスミーティングとスプリントセレモニーに参加します。
3. リーダーシップアクションプランの一環としてステークホルダーと定期的にミーティングを行い、主要なメッセージ、よくある質問、コミュニケーションを必要に応じて更新して、現在の IT およびビジネス戦略との関連性を維持します。
4. リスク管理と緩和ログを使用して、人的、文化的、組織的、政治的なリスクを管理します。機密性の高い問題を個別に文書化し、need-to-know限られた対象者のみと共有するように注意してください。
5. 必要に応じてクラウドビジネスケースを確認して更新し、必要に応じて新しい改革促進アクティビティを作成してクラウドの ROI を実現します。
6. クラウドトランスフォーメーションチームや社内の他のチームと教訓を文書化して共有し、進化、反復、継続的な改善の文化を創造します。

クラウドトランスフォーメーションの価値を最大限に引き出すには、改革促進を効果的に実装することが重要です。これらのステップとベストプラクティスに従い、変更戦略を体系的に実装することで、組織は中断を最小限に抑え、ステークホルダーを調整し、クラウド導入を加速して、望ましいビジネス成果を達成できます。

4.2 通信の実装

概要:

クラウドの導入を推進し、ビジネス成果を達成するには、効果的なコミュニケーションが不可欠です。このセクションでは、コミュニケーション戦略と計画の実装に焦点を当てます ([Envision the Future, 3.2](#))。コミュニケーションの実装の目的は、コミュニケーション戦略と計画で合意されたアクティビティを開始することです。これにより、影響を受けるすべてのステークホルダーが、クラウドトランスフォーメーションの理由、利点、ステークホルダー、タイムラインを理解できるようになります。効果的なコミュニケーションは、メリットとビジネス価値に焦点を当て、変革を通じてステークホルダーの全体的なエンゲージメントを維持します。

ベストプラクティス

引き受け

- [コミュニケーション戦略と計画](#)は、クラウドリーダーシップチーム、エグゼクティブスポンサー、人事チーム、および内部コミュニケーションチーム (該当する場合) によって検証および承認されています。
- ステークホルダー分析ステップが完了し、ステークホルダーメトリクスが最新である。

焦点

このフェーズのアクティビティでは、クラウドトランスフォーメーションプロセス中の変更戦略のコミュニケーション部分、特に以下に焦点を当てます。

- 通信のセットアップ
- メディア分析
- キーメッセージング (変更ケース)
- コミュニケーション開発
- 通信のデプロイ
- 通信モニタリング

リーダーシップスポンサーシップの維持

コミュニケーション活動の実施を通じてエグゼクティブスポンサーやリーダーからのコミットメントを確保し、メリットとビジネス価値に重点を置き、ステークホルダーのエンゲージメント全体を維持することが重要です。

コミュニケーション実装チェックリスト

このプロセスを初めて使用する場合は、次のチェックリストをクラウドトランスフォーメーションプロセス全体のリファレンスガイドとして使用できます。

Note

これはコミュニケーション関連のタスクの代表的なリストにすぎず、すべてを網羅しているわけではありません。コミュニケーションプランには包括的なリストを含める必要があります。

[面積]	アクション
セットアップ	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトまたはプログラムのテーマとブランドを開発します。 最終的なテーマとブランドの承認を取得します。 プロジェクトの標準テンプレートにビジュアルアイデンティティを組み込みます。
メディア分析	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション監査または評価を実施します。 結果を分析する (メディア分析など)。 コミュニケーション評価レポートを更新します。
キーメッセージング	<ul style="list-style-type: none"> 主要な組織メッセージセットを決定します。 メッセージをカテゴリ別に整理します (タイミングの頻度とチャンネルを考慮してください)。

[面積]	アクション
	<ul style="list-style-type: none">• 初期コミュニケーションのニーズと主要なメッセージを決定します。これは変更ケースに関連付けられています。• 初期通信のチャンネルと送信者を決定します。• ステークホルダーマトリックスを使用します。• スポンサーとリーダーシップをコミュニケーションのデプロイアクティビティと連携させます。
コミュニケーション開発	<ul style="list-style-type: none">• 主要なメッセージを対象者に伝えるためのドラフト作成、レビュー、承認、配布プロセスの概要を説明します。• ドラフト作成、レビュー、最終承認のためのレポート階層など、役割と責任を特定します。• 内部チームコミュニケーションプロセス (毎週の会議など) を確立します。• コミュニケーションプロセスフローを開発します。• コミュニケーション本番チェックリストを作成します。• コミュニケーションのドラフトを作成し、必要な承認を取得します。• コミュニケーションの本番プロセスを管理します。

[面積]	アクション
通信のデプロイ	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーションのデプロイタイムラインをエグゼクティブスポンサーや主要なステークホルダーと話し合います。 • リーダーシップチームやコミュニケーションの推進者との認識と連携を確保します。 • 最終的なコミュニケーションを行います。
通信モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> • フィードバックメカニズムを実装します。 • フィードバックメカニズムから収集された情報を確認します。 • コミュニケーション資料 (プレゼンテーションやよくある質問など) を改訂された情報で更新します。

追加のステップ

コミュニケーションプランの実装を開始するには:

1. [コミュニケーション戦略と計画](#)が検証され、承認されていることを確認します。
2. コミュニケーションチェックリストを検証します。
3. モニタリングメカニズムを確立します。

コミュニケーション計画を効果的に実施することは、クラウドの導入を推進し、望ましいビジネス成果を達成するために不可欠です。これらのベストプラクティスに従い、提供されたチェックリストを使用し、継続的なリーダーシップサポートを維持することで、組織は、クラウドトランスフォーメーションプロセスを通じてステークホルダーに情報を提供し、関与し、コミットし続けることができます。

4.3 エンゲージメントプランの実装

概要:

エンゲージメントプランでは、個人、ステークホルダーグループ、または組織がクラウドトランスフォーメーションによってもたらされる変化に対処する具体的な方法について説明します。エンゲージメント計画の実装は、すべての主要な利害関係者がクラウドトランスフォーメーションの望ましいビジネス成果にコミットし、それに焦点を当てることです。各ステークホルダーグループは、エンゲージメント戦略と計画 ([Envision the Future, 3.3](#)) で概説されているように、コミットメントモデルの優先順位とマッピングに従って対処し、関連情報と連携する必要があります。

" チームの焦点は、エンゲージメントタスクの実装において、指定されたリーダーやチャンピオンからのコミットメントを確保することです。

ベストプラクティス

引き受け

- エンゲージメント戦略と計画は、クラウドリーダーシップチーム、エグゼクティブスポンサー、人事チーム、内部コミュニケーションチームによって検証され、承認されています。
- リーダーとチャンピオンが計画段階に関与しています。適切にオンボーディングされ、プランを受け入れ、実装への参加にコミットしています。

焦点

このワークストリームの重点領域は次のとおりです。

- エンゲージメントの設定
- エンゲージメントプランの開発
- エンゲージメントプランのデプロイ
- モニタリングとレポート

エンゲージメントアクティビティチェックリスト

クラウドトランスフォーメーションプロセス全体で、以下のエンゲージメントプランチェックリストをリファレンスガイドとして使用できます。

Note

これはアクティビティの完全なリストではありません。これは、エンゲージメントプランに含める必要があるタスクのサンプルにすぎません。

[面積]	アクション
セットアップ	<ul style="list-style-type: none"> • エンゲージメント戦略とステークホルダー<u>評価に従って、ステークホルダーグループを検証</u>します。 • エンゲージメントの段階 (フォーカスグループ、非公式プレゼンテーション、ウェビナー、タウンホールなど) ごとにアクティビティを調整します。 • 所有者とチャンピオンを特定してオンボーディングします。 • ステークホルダーグループに所有者とチャンピオンを割り当てます。
開発を計画する	<ul style="list-style-type: none"> • すべての対象者にクラウドトランスフォーメーションに関する重要な情報を提供するコアプレゼンテーションデッキを作成します。 • リーダーシップチームの承認を得るために、コアプレゼンテーション資料をリーダーシップチームに送信します。 • コアプレゼンテーションデッキにサインオフします。 • ターゲットオーディエンスグループの特定の資料 (概要、影響情報、ステークホルダーグ

[面積]	アクション
	<p>ループの主な利点、タイミング情報、トレーニング情報など)を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分野の対象分野の専門家 (SMEs) と資料を確認して承認します。 これらのマテリアルのサインオフを取得します。 マテリアルをプロジェクトライブラリまたはナレッジリポジトリにアップロードします。
デプロイを計画する	<ul style="list-style-type: none"> SMEs やチャンピオンと資料を確認します。 配信形式 (face-to-faceや仮想など) を決定します。 リーダーやチャンピオンとアクティビティのタイミングを確認します。 イベントとアクティビティをスケジュールします。 参加者に通知します。 フォーカスグループ、部門会議、非公式な集まり、ウェビナー、デモンストレーションなどのエンゲージメントセッションを実施します。
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> エンゲージメントアクティビティの実装をモニタリングします。 出席率と質問を把握し、フィードバック評価を実施します。 必要に応じて、フィードバックを使用してエンゲージメントマテリアルを更新します。 エンゲージメントレポートまたはスコアカードを更新します。

追加のステップ

エンゲージメントプランの実装を開始するには、次の手順に従います。

1. [エンゲージメント戦略と計画](#)が検証され、承認されていることを確認します。
2. エンゲージメントアクティビティチェックリストが検証され、承認されていることを確認します。
3. モニタリングと報告のメカニズム (ステータスレポート、成功メトリクスのダッシュボード、OKRsなど) が設定されていることを確認します。

エンゲージメント計画を効果的に実施することは、クラウドの導入を推進し、望ましいビジネス成果を達成するために不可欠です。これらのベストプラクティスに従い、提供されたチェックリストを使用し、ステークホルダーの継続的な関与を維持することで、組織はすべての主要なステークホルダーがクラウドトランスフォーメーションプロセスにコミットし、集中し続けることができます。これにより、最終的にはビジネス成果の導入と実現が成功します。

4.4 トレーニングの実装

概要

トレーニング実装とは、トレーニング戦略と計画 ([Envision the Future, 3.4](#)) に規定された[アクティビティの起動](#)です。これにより、実施する必要があるトレーニングを特定するための構造と焦点、およびトレーニングプログラムを開発して提供するためのプロセスが提供されます。トレーニング戦略と計画を実施するときは、組織が通常行うトレーニングと一致するトレーニング作業を提供することを検討してください。従業員の慣れたワークフローに支障をきたさない有意義なトレーニングは、抵抗を減らし、従業員が変化に迅速に対応するのに役立ちます。さらに、データ駆動型のアプローチを使用して[AWS 学習ニーズ分析 \(LNA\)](#) ツールからトレーニング設定を収集し、それらの設定をトレーニングプランに適用すると、従業員からトレーニングへの賛同と希望を得ることができます。

ベストプラクティス

改革促進チームは、開発ニーズとトレーニングニーズの迅速な評価、トレーニングギャップの特定、既存のトレーニングプラクティスとの整合性、将来の状態モデルをサポートするトレーニングの提供に集中する必要があります。

引き受け

- [トレーニング戦略と計画](#)は、クラウドリーダーシップチーム、エグゼクティブスポンサー、学習と開発 (L&D) チーム、人事チーム、内部コミュニケーションチームによって検証され、承認されています。
- リーダーとチャンピオンはトレーニング計画フェーズに関与しており、計画に従ってトレーニング活動に参加することにコミットしています。
- トレーニング戦略と計画では、クラウドトランスフォーメーション計画とロードマップ全体を考慮し、SME 帯域幅を軽減します。
- [AWS トレーニングおよび認定コースのカリキュラムに含まれていないコース](#)は、ステークホルダーに割り当てられ、ステークホルダーグループごとにカスタマイズされます。

フォーカスエリア

このワークストリームは、次の領域に焦点を当てています。

- AWS 学習ニーズ分析 (LNA)
- トレーニングのセットアップ
- トレーニング開発 (カスタムニーズと非AWS 学習カリキュラム向け)
- トレーニングデプロイ
- モニタリングとレポート

トレーニング計画チェックリスト

次のチェックリストを、組織のクラウドトランスフォーメーションプロセス全体のリファレンスガイドとして使用します。

Note

次のチェックリストは網羅的なリストではありませんが、トレーニングプランで通常見つかるアクティビティを表します。検証および承認されたトレーニング戦略と計画には、トレーニングアクティビティの完全なリストが含まれている必要があります。

[面積]	アクション
AWS 学習ニーズ分析 (LNA)	<ul style="list-style-type: none"> • エグゼクティブスポンサーを特定し、チーム構造を提供します。 • アンケートを作成し、プレビュー URL を指定します。 • エグゼクティブスポンサーとアンケートを確認し、承認を得ます。 • アンケートディストリビューションの物流を確認します。 • アンケートを従業員に配布します。 • アンケートの回答番号を入力します。 • リマインダーメールを送信してアンケートを完了します。 • 予定された日にアンケートを閉じます。

[面積]	アクション
トレーニングのセットアップ	<ul style="list-style-type: none">• レポートを作成し、トレーニングのレコメンデーションを提供します。• トレーニング戦略と計画を検証し、移行ウェーブプランなどの主要なクラウドマイルストーンとの整合性を確保します。• 非トレーニングコース用のAWS トレーニングマテリアルテンプレート (必要な場合) を作成します。AWS LNA レポートに基づいてAWS トレーニングコースを検証します。• トレーニングマテリアルと非AWS トレーニングコース (該当する場合) にサインオフします。• ステークホルダーグループまたはクラウドロール (エンジニア、デベロッパー、ソリューションアーキテクト、オペレーションなど) ごとにトレーニングニーズを特定します。• ステークホルダーグループをトレーニング計画にオンボードします。• トレーニングカリキュラムを作成します。• トレーニングカリキュラムの承認とサインオフを取得します。• トレーニング本番チェックリストを作成します。• 非トレーニングコースのAWS トレーニング開発者 (インストラクショナルデザイナー) を特定してオンボーディングします。• トレーニングマテリアルレビュアーを特定します。

[面積]	アクション
トレーニング開発	<ul style="list-style-type: none"> • ステークホルダーグループをトレーニングコースに割り当てます。 • トレーニング資料のドラフトを作成します。 • トレーニングマテリアルを確認して承認します。 • ライブラリまたはナレッジリポジトリにマテリアルをアップロードします。
トレーニングデプロイ	<ul style="list-style-type: none"> • トレーニングカレンダーのドラフトを作成します。 • トレーニングカレンダーの承認とサインオフを取得します。 • 特定の AWS インストラクター主導のトレーニング (ILTs)。 • 移行ウェーブプランに基づいてトレーニング参加者を特定します。 • トレーニング参加者を登録して通知します。 • トレーニングアクティビティを実施してサポートします。
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none"> • トレーニング開発およびデプロイアクティビティの実装をモニタリングします。 • 出席率、質問、フィードバックの評価をキャプチャします。 • 必要に応じて、フィードバックに基づいてトレーニングマテリアルを更新します。 • トレーニング開発とデプロイのレポートまたはスコアカードを更新します。

詳細については、[AWS 「学習ニーズ分析」](#) を参照してください。

追加のステップ

トレーニングプランの実装を開始するには、以下を確認してください。

1. AWS LNA は実施され、インサイトは[トレーニング戦略と計画](#)に含まれています。
2. トレーニング戦略と計画が検証され、承認されました。
3. トレーニングアクティビティチェックリストが検証され、承認されました。
4. モニタリングと報告のメカニズムが整っています。

トレーニング計画を効果的に実施することは、クラウドの導入を推進し、望ましいビジネス成果を達成するために不可欠です。これらのベストプラクティスに従い、LNA AWS を使用し、包括的なトレーニングプランを実装することで、組織はワークフォースが適切にスキルを持ち、クラウドトランスフォーメーションに備えることができます。これにより、導入が加速され、クラウド投資から実現される価値も最大化されます。

4.5 リスク軽減の実装

概要

このアクティビティの目的は、リスク軽減戦略と計画 ([Envision the Future、3.5](#)) に規定されたアクティビティを開始することです。「」チームの焦点は、すべてのクラウドワークストリームと密接に連携して、リスクの評価と分析、ソリューションまたは緩和計画の策定、所有権の割り当て、閉鎖のリスクへの対応です。リスクの解決には、エグゼクティブスポンサー、リーダー、チャンピオンとのコミットメントと緊密な連携、およびプログラムライフサイクルを通じて人関連のリスクを管理、軽減、モニタリングし、このプロセスをクラウドトランスフォーメーションプログラムの他のすべてのワークストリームと統合するための統制されたアプローチが必要です。

ベストプラクティス

クラウドトランスフォーメーションプログラム全体で追跡するリスクは、「Envision the Future」の「[3.5 リスク軽減戦略と計画](#)」で説明されているように、リスク追跡ツールに記録する必要があります。次の表に、このようなツールの例を示します。

リスクカテゴリ	緊急度	見込み	リスクの説明	緩和アクション	所有者	ステータス	期日
リソース	Medium	高	セキュリティSMEは、テストおよびカットオーバーフェーズと重複する休暇を取りま	特定のテストとカットオーバー計画について、バックアップセキュリティSMEをオンボーディング	マルタリベラ	進行中	2025年3月31日

リスクカテゴリー	緊急度	見込み	リスクの説明	緩和アクション	所有者	ステータス	期日
				およびトレーニングします。			

フォーカスエリア

リスク軽減の実装は、次の5つのフェーズに整理できます。

- 計画とセットアップ
- 識別と分析
- 割り当てと解決
- モニタリングとレポート
- 継続的な改善

リスク軽減計画チェックリスト

次のチェックリストを、組織のクラウドトランスフォーメーションプロセス全体のリファレンスガイドとして使用します。

Note

次のチェックリストは網羅的なリストではありませんが、リスク軽減計画で通常見つけるアクティビティを表しています。検証および承認されたリスク軽減戦略と計画には、トレーニングアクティビティの完全なリストを含める必要があります。

[面積]	アクション
計画とセットアップ	<ul style="list-style-type: none"> • クラウド戦略を確認し、期待される成果とタイムラインを計画します。

[面積]	アクション
	<ul style="list-style-type: none"> • 全体的な問題とリスクの軽減プロセスについて、クラウドプロジェクトマネージャーと調整します。 • リスク管理追跡ツールのテンプレートを作成します。 • リスク管理追跡ツールテンプレートのサインオフを取得します。 • リスク管理活動の SMEs または推進者を特定します。 • HIPAA ソリューションの戦術とコミュニケーションについて、SMEs またはチャンピオンをオンボーディングします。 • 週 1 回のプロジェクトステータス会議への "チーム参加を確保します。
識別と分析	<ul style="list-style-type: none"> • 特定されたリスクが人に関連する問題であるかどうかを判断します。 • 「はい」の場合は、影響を受けるグループとステークホルダーを特定します。 • 各リスクを、変革のリーダーシップ、ビジョンと明確性、組織への影響、保持とエンゲージメント、スキルと能力、コミットメントなどの分野に分類します。 • 適切な "ソリューションの戦術 (詳細情報とコミュニケーション、追加のトレーニング、シナリオ、実践的なデモンストレーションなど) を特定します。

[面積]	アクション
割り当てと解決	<ul style="list-style-type: none">• 特定された各リスクへの対処と解決を担当する特定のチームメンバーを配置します。• ソリューションまたは緩和イベントの時間枠を調整します。• ソリューションまたは緩和イベントをスケジュールします。
モニタリングとレポート	<ul style="list-style-type: none">• ソリューションまたは緩和アクティビティの実装をモニタリングします。• 一般的な根本原因について、リスク管理トラッカーを評価します。• リスク管理トラッカーを確認するときは、出席状況、質問、フィードバックの評価をキャプチャします。• 必要に応じて、フィードバックを含むプレゼンテーション資料を更新します。• リスク軽減トラッカーを更新します。

[面積]	アクション
<p>継続的な改善のために学んだベストプラクティスと教訓を追跡する</p>	<ul style="list-style-type: none"> • リスク追跡ツールを分析してインサイトを得て、組織の継続的な変革イニシアチブを改善します。 • 継続的な開発、トレーニング、成長のために学んだ教訓とベストプラクティスのリポジトリを確立して共有します。 • リスクのリスト内のパターンを決定し、他のトランスフォーメーションイニシアチブを加速するのに役立ちます。組織にトランスフォーメーション管理オフィス (TMO) またはプロジェクト管理オフィス (PMO) がある場合、これはそれらのオフィスにとって関心のあるトピックである可能性があります。 • ベストプラクティスと学んだ教訓を共有することで、文化を進化させます。タイムリーなフィードバックと調整は、組織が俊敏性を維持し、最終的に貴重な時間、コスト、労力を節約するのに役立ちます。

追加のステップ

効果的なリスク軽減を確保するには：

1. 人関連のリスク管理プロセスが、リスク、アクション、問題、依存関係 (RAID) ログなどのプログラムプロセスと統合されていることを確認します。
2. 人関連のリスクを調べる際には、プログラム全体を見て、他の技術的、予算的、タイミング上のリスクが人にどのように影響するかを確認してください。
3. 明確なモニタリングと測定プロセスを実装して、あらゆるリスク軽減の取り組みが機能し、効果的であることを確認します。
4. クラウドプログラムを通じて人的リスクの軽減とクローズを追跡し、望ましいクラウド成果を達成する組織の能力に対するリスク軽減の影響を評価します。

リスク軽減計画を効果的に実施することは、クラウドの導入を推進し、望ましいビジネス成果を達成するために不可欠です。これらのベストプラクティスに従い、包括的なリスク追跡ツールを使用し、リスク管理への構造化されたアプローチを維持することで、組織はクラウド変革ジャーニーの潜在的な障害に積極的に対処できます。これにより、中断を最小限に抑えるだけでなく、導入を加速し、クラウド投資から得られる価値を最大化できます。

リソース

リファレンス

- [戦略的変革と変革の方法論を採用することで、クラウド投資収益率を加速する](#)
- [AWS Change Acceleration 6-Pointフレームワークと組織変更管理ツールキット](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 1. チームの準備](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 2. リーダーの連携](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 3. 未来を思い描く](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 5. 能力を発揮させる](#)
- [AWS Organizational Change Acceleration \("\) 6-Pointフレームワーク – 6. 文化の変化を定着させる](#)
- [AWS クラウド導入フレームワーク \(CAF\)](#)
- [AWS クラウド導入フレームワーク: 人材の視点](#)
- [AWS 学習ニーズ分析 \(LNA\)](#)

パートナー

- アクセント
 - [パートナーへのお問い合わせ](#)
 - [Accenture AWS Business Group へのお問い合わせ](#)
 - [将来の人材プラットフォーム](#)
 - [Accenture と AWS を使用すると、さらに高速になります。](#)
- デロイト
 - [問い合わせパートナー](#)
 - [AWS と Deloitte](#)
 - [イノベーションと影響の出会い](#)
- PwC
 - [問い合わせパートナー](#)
 - [PwC と AWS](#)
- スラロム

-
- [パートナーへのお問い合わせ](#)
 - [AWS および Slalom 起動センター](#)
 - Roberts グループコンサルティング
 - [問い合わせパートナー](#)

寄稿者

- Melanie Gladwell、AWS シニアプラクティスマネージャー
- スコット・スコット・スコットランド、AWS 人材変換リード
- Tierra Jennings-Hill、AWS 人事変革リーダー
- Nicole Lenz、AWS セールストランスフォーメーションリード
- Jermel Moody、AWS Change Acceleration リード
- Travis McNeal、AWS Change Acceleration リード

ドキュメント履歴

以下の表は、本ガイドの重要な変更点について説明したものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#) をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2025 年 2 月 7 日

AWS 規範ガイドの用語集

以下は、AWS 規範ガイドによって提供される戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための7つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが2011年に特定した5Rsに基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行する。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの Oracle 用の Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行する。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: 顧客関係管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行する。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: お客様のオンプレミスの Oracle データベースを AWS クラウドの EC2 インスタンス上の Oracle に移行する。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。オンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスにサーバーを移行します。例: Microsoft Hyper-Vアプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれらを行行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。
- 廃止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

「[属性ベースのアクセス制御](#)」をご覧ください。

抽象化されたサービス

「[マネージドユーザー](#)」をご覧ください。

ACID

「[原子性、一貫性、分離性、耐久性 \(ACID\)](#)」をご覧ください。

アクティブ/アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。[アクティブ/パッシブ移行](#)よりも柔軟な方法ですが、さらに多くの作業が必要となります。

アクティブ/パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

複数行に処理を行い、グループ全体を対象に単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUM や MAX などがあります。

AI

「[人工知能](#)」をご覧ください。

AIOps

「[AI オペレーション](#)」をご覧ください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーション制御

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の重要な要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」をご覧ください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリーバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン (AZ)

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドへの移行を成功させるための効率的で効果的な計画を立てるための、のガイドラインとベストプラクティスのフレームワークです。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを整理しています。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、クラウド導入を成功させるための準備に役立つ人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#)と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人や組織に混乱や損害を与えることを目的とした [ボット](#)。

BCP

「[ビジネス継続性計画 \(BCP\)](#)」をご覧ください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの「[動作グラフのデータ](#)」を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

それぞれが独立しているが、同一の環境を 2 つ作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンを 1 つの環境 (ブルー) で実行し、新しいアプリケーションバージョンを別の環境 (グリーン) で実行します。この戦略は、最小限の影響で迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティややり取りをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボットの中には、個人や組織を混乱させたり、損害を与えたりすることを意図したものもあります。

ボットネット

[マルウェア](#)に感染しており、ボットハーダーまたはボットオペレーターと呼ばれる単一の当事者によって制御されている [ボット](#) のネットワーク。ボットネットは、ボットとその影響力を拡大する仕組みとして、非常によく知られています。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたなら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチの概要](#)」(GitHub ドキュメント)を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況では、承認されたプロセスを通じて、ユーザーが AWS アカウント 通常アクセス許可を持たないにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、AWS Well-Architected ガイドの「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータを参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、[AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#)ホワイトペーパーの「[ビジネス機能を中心に組織化](#)」セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

「[AWS クラウド導入フレームワーク](#)」を参照してください

カナリアデプロイ

エンドユーザーへのバージョンリリースを、時間をかけて段階的に行うこと。確信が持てたら新規バージョンをデプロイして、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

「[Cloud Center of Excellence](#)」を参照してください。

CDC

「[変更データキャプチャ](#)」を参照してください。

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストすること。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS\)](#) を使用して、AWS ワークロードにストレスを与え、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

「[継続的インテグレーションと継続的デリバリー](#)」を参照してください。

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前のローカルでのデータの暗号化。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの [CCoE 投稿](#) を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に、[エッジコンピューティング](#)に接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、「[クラウド運用モデルの構築](#)」を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が、AWS クラウドへの移行時に通常実行する 4 つの段階。

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーンの作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事「[クラウドファーストへのジャーニー](#)」と「[導入のステージ](#)」で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略との関連性については、AWS「[移行準備ガイド](#)」を参照してください。

CMDB

「[構成管理データベース \(CMDB\)](#)」を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub や Bitbucket Cloud があります。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサービスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があり、バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオといった、ビジュアル形式の情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、Amazon SageMaker AI では、CV 用の画像処理アルゴリズムを利用できます。

設定ドリフト

ワークロードにおいて、設定が想定した状態から変化すること。これによって、ワークロードが非準拠になる可能性があります。この状態は、徐々に生じ、意図的なものではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョンの単一のエンティティとしてデプロイすることも、組織全体にデプロイすることもできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

「[コンピュータビジョン](#)」を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、「[データ分類](#)」を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

非一元的で分散型のデータ所有権を持つとともに、一元的な管理およびガバナンスを行えるアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。データ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼された ID のみが、期待されるネットワークから信頼されたリソースにアクセスできるようにします。詳細については、「[AWS でのデータ境界の構築](#)」を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには、一般的に、大量の履歴データが含まれており、多くの場合、それらはクエリや分析に使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

「[データベース定義言語](#)」を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせます。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

深層学習

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

多層防御

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略を採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。たとえば、多層防御アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの「[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)」を参照してください。

トラブルシューティング

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

「[環境](#)」を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[検出的コントロール](#)」を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニユファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#)において、ファクトテーブルの定量データに関するデータ属性が含まれる小さいテーブル。ディメンションテーブルの属性は、通常、テキストフィールド、またはテキストのよ

うに扱える個別の数値で示されます。これらの属性は、一般的に、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[ディザスタ](#)によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるための戦略とプロセス。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[でのワークロードのディザスタリカバリ](#)」[AWS: クラウドでのリカバリ](#)」を参照してください。

DML

「[データベース操作言語](#)」を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計:ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ボストン: Addison-Wesley Professional, 2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

DR

「[ディザスタリカバリ](#)」を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差を追跡します。例えば、AWS CloudFormation を使用して[システムリソースのドリフトを検出](#)したり、を使用して AWS Control Tower、ガバナンス要件への準拠に影響する[ランディングゾーンの変更を検出](#)したりできます。

DVSM

「[開発バリューSTREAMマッピング](#)」を参照してください。

E

EDA

「[探索的データ分析](#)」を参照してください。

EDI

「[電子データ交換](#)」を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を改善できます。

電子データ交換 (EDI)

組織間で行う、ビジネスドキュメントの自動交換。詳細については、「[電子データ交換とは](#)」を参照してください。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティング処理。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

「[サービスエンドポイント](#)」を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これら

のアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの「[エンドポイントサービスを作成する](#)」を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (会計、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) ドキュメントの「[エンベロープ暗号化](#)」を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

「[エンタープライズリソース計画](#)」を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#)の中央にあるテーブル。ビジネスオペレーションに関する定量的データが保存されます。一般的に、ファクトテーブルは、2 種類の列で構成されます。1 つは測定値が含まれる列、もう 1 つはディメンションテーブルへの外部キーが含まれる列です。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために、頻繁かつ段階的にテストを行う哲学であり、アジャイルアプローチでは、この考え方がきわめて重要です。

障害分離境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し、ワークロードの耐障害性を高めるのに役立つアベイラビリティゾーン AWS リージョン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界。詳細については、「[AWS 障害分離境界](#)」を参照してください。

機能ブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械

学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021年」、「5月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

数ショットプロンプト

[LLM](#) に、タスクと望ましい出力を示す例を少数提示した後に、類似のタスクを実行させること。この手法は、プロンプトに記述された例 (ショット) からモデルが学習する「インコンテキスト学習」の一種です。数ショットプロンプトは、特定のフォーマット、推論、専門知識が必要なタスクに効果的です。「[ゼロショットプロンプト](#)」も参照してください。

FGAC

「[きめ細かなアクセス制御](#)」を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

[変更データのキャプチャ](#) による継続的なデータ複製を利用して、段階的なアプローチではなく、可能な限り短時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

FM

「[基盤モデル](#)」を参照してください。

基盤モデル (FM)

大規模な深層学習ニューラルネットワークであり、一般化およびラベル付けされていないデータからなる大規模データセットでトレーニングされています。FM により、言語理解、テキストおよび画像生成、自然言語での会話といった、一般的な各種タスクを実行できます。詳細については、「[基盤モデルとは何ですか?](#)」を参照してください。

G

生成 AI

[AI](#) モデルのサブセット。大量のデータでトレーニングされており、シンプルなテキストプロンプトを使用して、画像、動画、テキスト、オーディオなどの新しいコンテンツやアーティファクトを作成できます。詳細については、「[生成 AI とは何ですか?](#)」を参照してください。

ジオブロッキング

「[地理的制限](#)」を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

特定の国のユーザーがコンテンツ配信にアクセスできないようにするための、Amazon CloudFront のオプション。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの「[コンテンツの地理的ディストリビューションの制限](#)」を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローは古いと見なされている方法であり、[トランクベースのワークフロー](#)は推奨されている新しい方法です。

ゴールデンイメージ

システムまたはソフトウェアのスナップショットであり、システムまたはソフトウェアの新規インスタンスをデプロイするテンプレートとして使用されます。製造の例で言えば、ゴールデンイメージを使用すると、複数のデバイスにソフトウェアをプロビジョニングして、デバイス製造オペレーションの速度、スケーラビリティ、生産性を向上させることができます。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは AWS Config、Amazon GuardDuty AWS Security Hub CSPM、AWS Trusted Advisor Amazon Inspector、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

「[高可用性](#)」を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

高可用性 (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

ホールドアウトデータ

[機械学習](#) モデルのトレーニング用データセットから保留される、ラベル付き履歴データの一部。ホールドアウトデータを使用すると、モデル予測をホールドアウトデータと比較して、モデルのパフォーマンスを評価できます。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性が高いため、通常の DevOps のリリースワークフローからは外れた形で実施されます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

laC

「[Infrastructure as Code](#)」を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

「[インダストリアル IIoT](#)」を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存インフラストラクチャの更新、パッチ適用、変更などを行わずに、本番環境ワークロードに使用する新規インフラストラクチャをデプロイするモデル。本質的に、イミュータブルインフラストラクチャは、[ミュータブルインフラストラクチャ](#)よりも一貫性、信頼性、予測性に優れています。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークにある「[イミュータブルインフラストラクチャを使用してデプロイする](#)」のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーションの外部からネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリ

ケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

2016 年に [Klaus Schwab](#) 氏が提唱した用語で、接続、リアルタイムデータ、オートメーション、分析、AI/ML の進歩による、ビジネスプロセスのモダナイズを意味します。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

インダストリアル IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[「インダストリアル IoT \(IIoT\) デジタルトランスフォーメーション戦略の構築」](#)」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「[を使用した機械学習モデルの解釈可能性 AWS](#)」を参照してください。

IoT

「[IoT](#)」を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

ITIL

「[IT 情報ライブラリ](#)」を参照してください。

ITSM

「[IT サービス管理](#)」を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロードとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、「[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#)」を参照してください。

大規模言語モデル (LLM)

大量のデータで事前トレーニングされた深層学習 AI モデル。LLM では、質問への回答、ドキュメントの要約、他言語へのテキスト翻訳、文を完成させるなど、さまざまなタスクを実行できます。詳細については、「[大規模言語モデル \(LLM\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

「[ラベルベースアクセス制御](#)」を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの「[最小特権アクセス許可を適用する](#)」を参照してください。

リフトアンドシフト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。「[エンディアン性](#)」もご覧ください。

LLM

「[大規模言語モデル](#)」を参照してください。

下位環境

「[環境](#)」を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

「[ブランチ](#)」を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティやプライバシーを侵害するように設計されたソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスを招く可能性があります。マルウェアの例には、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスはインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、エンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。マネージドサービスの例として、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB が挙げられます。このサービスは、抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するソフトウェアシステムであり、工場では、これによって、原材料から製品を完成させます。

MAP

「[Migration Acceleration Program](#)」を参照してください。

メカニズム

ツールを作成してその導入を推進し、導入結果を調べて調整を行うための包括的なプロセス。メカニズムとは、運用中にそれ自体を強化し改善するサイクルを意味します。詳細については、AWS 「Well-Architected フレームワーク」の「[メカニズムの構築](#)」を参照してください。

メンバーアカウント

組織の一部である管理アカウント AWS アカウント 以外のすべて AWS Organizations。アカウントが 組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#)を参照してください。

Message Queuing Telemetry Transport (MQTT)

[発行/サブスクライブ](#)のパターンに基づく、軽量のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコルであり、リソースに限りのある [IoT](#) デバイスに使用されます。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロイ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

組織がクラウドに移行するための強力な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立つコンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、運用、ビジネスアナリストおよび所有者、移行エンジニア、デベロッパー、およびスプリントで作業する DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と[Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例としては、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: AWS Application Migration Service を使用して Amazon EC2 への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

オンラインツール。これによって、AWS クラウドに移行するビジネスケースの検証に必要な情報を得られます。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェーブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナーコンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#)を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#)の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを AWS クラウドに移行するために使用するアプローチ。詳細については、この用語集の [7 Rs](#) エントリと、「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

「[機械学習](#)」を参照してください。

モダナイゼーション

古い(レガシーまたはモノリシック)アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイズ戦略](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定されたギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を評価する](#)」を参照してください。

モノリシックアプリケーション(モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できます。詳細については、「[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)」を参照してください。

MPA

「[Migration Portfolio Assessment](#)」を参照してください。

MQTT

「[Message Queuing Telemetry Transport](#)」を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス(2つ以上の結果の1つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

ミュータブルなインフラストラクチャ

本番ワークロードに使用する既存のインフラストラクチャを更新および変更するためのモデル。Well-Architected AWS フレームワークでは、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

「[オリジンアクセス制御](#)」を参照してください。

OAI

「[オリジンアクセスアイデンティティ](#)」を参照してください。

OCM

「[組織変更管理](#)」を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

Ola

「[オペレーショナルレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずにターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

Open Process Communications - Unified Architecture (OPC-UA)

産業オートメーション用のマシンツーマシン (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA により、相互運用の際に、データ暗号化、認証、認可の各スキームを標準化できます。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

質問と関連するベストプラクティスのチェックリスト。インシデントや起こり得る障害を理解、評価、防止したり、その範囲を縮小したりする際に役立ちます。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[Operational Readiness Reviews \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業オペレーション、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携させるハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造分野では、[Industry 4.0](#) への変革を進める上で、OT と情報技術 (IT) システムの統合に焦点が当てられています。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

組織 AWS アカウント 内のすべてののすべてのイベント AWS CloudTrail をログに記録するによって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、CloudTrail ドキュメントの「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードにより、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセス制御 (OAC)

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するための、CloudFront のアクセス制限の強化オプション。OAC は AWS リージョン、すべての S3 バケット、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

CloudFront の、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセス制限オプション。OAI を使用すると、CloudFront が、Amazon S3 に認証可能なプリンシパルを作成します。認証されたプリンシパルは、S3 バケット内のコンテンツに、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみアクセスできます。[OAC](#) も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセス制御が可能です。

ORR

[「運用準備状況レビュー」](#) を参照してください。

OT

[「運用テクノロジー」](#) を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されたネットワーク接続を処理する VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

P11

「[個人を特定できる情報](#)」を参照してください。

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

「[プログラマブルロジックコントローラー](#)」を参照してください。

PLM

「[製品ライフサイクル管理](#)」を参照してください。

ポリシー

次の操作を可能にするオブジェクト: アクセス許可を定義する ([ID ベースのポリシー](#)を参照)。アクセス条件を指定する ([リソースベースのポリシー](#)を参照)。AWS Organizations の組織における全アカウントにアクセス許可の上限を定義する ([サービスコントロールポリシー](#)を参照)。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行の準備状況の評価](#)」を参照してください。

述語

true または false を返すためのクエリ条件。一般的に、WHERE 句に記述されます。

述語プッシュダウン

データベースクエリを最適化する手法。これによって、転送前にクエリ内のデータをフィルタリングします。この手法を取ると、リレーショナルデータベースから取得し処理する必要のあるデータの量が減少するため、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[予防的コントロール](#)」を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM AWS アカウントロール、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの「[ロールに関する用語と概念](#)」にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

開発プロセス全体を通してプライバシーが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠リソースのデプロイ防止を目的とした[セキュリティコントロール](#)。このコントロールにより、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。コントロールに準拠していないリソースは、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[セキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

製品の設計、開発、発売から、成長、成熟、衰退、廃棄に至る、製品のライフサイクル全体を通してデータとプロセスを管理すること。

本番環境

「[環境](#)」を参照してください。

プログラマブルロジックコントローラー (PLC)

製造分野で使用される、信頼性と適応性に優れたコンピュータであり、これによって、マシンをモニタリングするとともに、製造プロセスを自動化します。

プロンプトチェイニング

1つの [LLM](#) プロンプトによる出力を次のプロンプトの入力に使用して、より良いレスポンスを生成します。この手法を使用すると、複雑なタスクをサブタスクに分割したり、事前レスポンスを繰り返し改良または拡張したりできます。これによって、モデルのレスポンスの精度と関連性が向上し、粒度の高いパーソナライズされた結果を得られます。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

発行/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にするパターン。これにより、スケーラビリティと応答性を向上させます。例えば、マイクロサービスベースの [MES](#) の場合、マイクロサービスは、他のマイクロサービスがサブスクライブ可能なチャンネルにイベントメッセージを発行できます。このシステムでは、発行サービスの変更なしに、新規マイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

手順などの一連のステップであり、SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用されます。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RAG

「[検索拡張生成](#)」を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

「[実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 \(RACI\)](#)」を参照してください。

RCAC

「[行と列のアクセス制御](#)」を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

リアーキテクト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービス中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、「[アカウントが使用できる AWS リージョンを指定する](#)」を参照してください。

リグレッション

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実 (平方フィートなど) に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

「[7 Rs](#)」を参照してください。

リプラットフォーム

「[7 Rs](#)」を参照してください。

再購入

「[7 Rs](#)」を参照してください。

回復性

中断に抵抗または中断から回復するアプリケーションの機能。AWS クラウドでの回復力を計画する際には、一般的に、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が考慮されます。詳細については、「[AWS クラウドの耐障害性](#)」を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任 (A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートが含まれる場合は RASCI マトリックスと呼ばれ、含まれない場合は RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、「AWSでのセキュリティコントロールの実装」の「[レスポンスコントロール](#)」を参照してください。

保持

「[7 Rs](#)」を参照してください。

廃止

「[7 Rs](#)」を参照してください。

検索拡張生成 (RAG)

[生成 AI](#) の技術。これにより、[LLM](#) では、レスポンスの生成前に、トレーニングデータソースの外部にある信頼できるデータソースが参照されます。例えば、RAG モデルによって、組織のナレッジベースまたはカスタムデータのセマンティック検索を実行できる場合があります。細については、「[RAG \(検索拡張生成\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

ローテーション

定期的に[シークレット情報](#)を更新して、攻撃者が認証情報にアクセスするのをより困難にするプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「[目標復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「[目標復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdP) が使用しているオープンスタンダード。この機能を使用すると、フェデレーティッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは組織内のすべて

のユーザーを IAM で作成しなくても、AWS マネジメントコンソールにログインしたり AWS、API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの「[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)」を参照してください。

SCADA

「[監視制御とデータ取得](#)」を参照してください。

SCP

「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

シークレット

暗号化された形式で保存する AWS Secrets Manager パスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値には、バイナリ、1つの文字列、複数の文字列を指定できます。詳細については、Secrets Manager ドキュメントの「[Secrets Manager シークレットの概要](#)」を参照してください。

セキュリティバイデザイン

開発プロセス全体を通してセキュリティが考慮されているシステムエンジニアリングのアプローチ。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、主に4つの種類があります。4つとは、[予防](#)、[検出](#)、[レスポンス](#)、[プロアクティブ](#)です。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントへの自動レスポンスまたは自動修復を目的として、事前定義およびプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスを実装するのに役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアクションの例には、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報の更新などがあります。

サーバー側の暗号化

送信先で、それ AWS のサービス を受け取る によるデータの暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエンドポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットといった、サービスパフォーマンス面の指標。

サービスレベル目標 (SLO)

[サービスレベルインジケータ](#)によって測定され、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、 はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、「[責任共有モデル](#)」を参照してください。

SIEM

「[Security Information and Event Management システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

特定のアプリケーションを構成する単一の重要なコンポーネントで発生し、システム稼働に支障をきたす可能性のある障害。

SLA

「[サービスレベルアグリーメント](#)」を参照してください。

SLI

「[サービスレベルインジケータ](#)」を参照してください。

SLO

「[サービスレベルの目標](#)」を参照してください。

スプリットアンドシードモデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケールアップと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、「[AWS クラウドでのアプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ](#)」を参照してください。

SPOF

「[単一障害点](#)」を参照してください。

スタースキーマ

データベースの編成構造を意味し、1つの大きいファクトテーブルにトランザクションデータまたは測定データが保存され、1つ以上の小さいディメンションテーブルにデータ属性が保存されます。この構造は、[データウェアハウス](#)やビジネスインテリジェンスを用途とするように設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。

そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler](#) により提唱されました。このパターンの適用方法の例については、「[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)」を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視制御とデータ取得 (SCADA)

製造分野において、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと本番運用をモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーとのやり取りをシミュレートして、起こり得る問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりすることで、システムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用すると、こうしたテストを作成できます。

システムプロンプト

コンテキスト、指示、ガイドラインなどを提示して、[LLM](#) に動作を指示する手法。システムプロンプトは、コンテキストを設定して、ユーザーとやり取りするルールを確立するのに有用です。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

「[環境](#)」を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパターンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定したサービスにアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要なときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[Using AWS Organizations with other AWS services](#) AWS Organizations」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2枚のピザを分け合えることができるくらい小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の2つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化ガイド](#)を参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

「[環境](#)」を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに何らかの形で関連している行のグループに計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均を計算したり、現在の行の相対位置に基づいて他の行の値にアクセスするといったタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

「[Write-Once-Read-Many](#)」を参照してください。

WQF

「[AWS ワークロード資格フレームワーク](#)」を参照してください

Write-Once-Read-Many (WORM)

データを 1 回のみ書き込むことで、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認済みユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは、[イミュータブル](#)と見なされます。

Z

ゼロデイ 익스プロイト

[ゼロデイ脆弱性](#)を悪用した攻撃 (一般的にマルウェアによる)。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゼロショットプロンプト

[LLM](#) にタスク実行の手順は提示するが、実行のガイドとして役立つ例 (ショット) は提示しない方法。LLM は、事前トレーニング済みの知識を使用してタスクを処理する必要があります。ゼロショットプロンプトの有効性は、タスクの複雑さとプロンプトの品質によって異なります。「[数ショットプロンプト](#)」も参照してください。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。